

青森県三戸郡（国内9例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和3年12月12日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、山の丘陵部に位置し、付近は森林や水田に囲まれていた。
- ② 調査時、発生農場から2.2kmの距離にあるため池でコガモ10羽が確認された。
- ③ 当該農場は開放鶏舎3棟があり、発生時には全ての鶏舎で種鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎における12月8日以前の1日あたりの死亡鶏は、0～1羽の間で推移していたとのこと。
- ② 発生鶏舎で12月9日に15羽の死亡があり、死亡鶏はいずれも散在していたことから、管理獣医師に相談し、換気に伴う寒冷の影響を疑い、換気量を調整し様子を見ることとした。12月10日には64羽の死亡があったが、同様の対策を継続したとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、12月11日に発生鶏舎で130羽と死亡がさらに増加したことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。なお、通報後にも死鳥は増え続け、同日の死亡羽数は最終的に177羽となった。
- ④ 疫学調査時には、発生鶏舎で死亡や沈鬱等が多く確認された。発生鶏舎以外の鶏舎では異常は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では従業員3名が勤務していた。
- ② 全員が健康観察、集卵作業を行っており、種卵の系列農場への運搬作業のみ、3名のうちの2名が従事していたとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場に入る際、シャワーを使用した上で、農場専用の作業着、長靴に交換し、手指を消毒していたとのこと。また、鶏舎に入る際は、前室で専用のサンダルに履き替え、前室から飼養エリアに入る際は専用長靴を着用し、手指を消毒していたとのこと。
- ② 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されていた。
- ③ 飼養管理者によると、飼養鶏への給与水は井戸水を利用しており、塩素消毒を実施していたとのこと。
- ④ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、その日のうちに系列農場の死鶏処理装置で処理していたとのこと。なお、死鶏処理装置は系列農場の衛生管理区域外に設置してあるとのこと。
- ⑤ 飼養管理者によると、当該農場は農場全体でオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、鶏舎からの鶏糞は、オールアウト後に近隣農家に搬出していたとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、種卵は農場内でホルマリン燻蒸し、系列農場の冷蔵庫に搬出し、出荷まで保管しておくとのこと。
- ⑧ 飼養管理者によると、車両が農場敷地に入場する際、農場入り口に設置された動力噴霧器で車体及びタイヤ回りを消毒していたとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎である開放鶏舎は、両側面の開口部はカーテン等でふさがれており、鶏舎側面上部の吸気口からのみ吸気し、鶏舎奥側の壁に設置されている換気扇より排気

していた。なお、吸気口には金網、換気扇には自動開閉式の蓋が設置されていた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場内で野生動物を目撃したことはほとんどないとのこと。
- ② 飼養管理者によると、ネズミ対策（殺鼠剤及び粘着シートの設置）を実施しているが、今冬、鶏舎内でネズミを目撃したことはないとのこと。